

中学生の「税についての作文」

大木町長賞

身近にある税のありがたさ

大木町立大木中学校

三年 山下 絢子

「税金と言えよ？」と聞かれて、私が知っているものと言えよ消費税だ。しかし、日常の中で自分のお金を使って買い物をする機会は少なく、ほとんど消費税を実感することはなかった。税金のことについて考える機会にあたり、リーフレット等で学んだ。すると、私達の学校に関する物、保健、医療、福祉の整備、警察・消防関連、道路・交通機関の整備、文化・スポーツ施設の整備、研究開発、環境保全など、私達が暮らしていく上で必要なありとあらゆるところで税金が使われていることが分かり、税金は、なくてはならないものだと思つた。

そこで、具体的に家ではどんな税金を納めているのか、両親に聞いた。所得税、自動車税、町民税、固定資産税など、次々に税の名前が出てきた。その中でも、自動車にも税金がかかることに驚き、聞いてみると、なくてもいいもの、嗜好品にも税金がかかることを教えてくれた。交通の便があまりよくないこの辺りでは、自動車がなくていいものとは思えな

いのでよく分からなかったが、お酒にかかる酒税や、たばこにかかるたばこ税があることを聞くと、確かにお酒やたばこを好む人はいるが、全ての人がそうではないので、必ずしもなくてはならないものではないから嗜好品ということになり、税金がかかるのだということが分かった。そう考えると、先に挙げた様々な場面で使われる税は、人が生きていく上で欠かすことのできない税なので、今すぐには必要でなくても、いつかどこかで関わるものなので、必ず納めなければならぬと思う。

私は今、義務教育で教育を受ける立場にいますので、学校に関するものはすべて税金で賄われているということになる。町立中学校だったら、町民税という、町民が納めた税金の一部で支えられている。私は吹奏楽部に所属しているが、毎年新しい楽器を買っていただいている。顧問の先生から「町に楽器購入要望を出している」と聞いたことがあったが、町民の方々が納めて下さった税金で購入出来ることが分かり、感謝し、大切に使用していきたいと思う。

今、私は税金によって守られている立場にあるが、将来、大人になり、今度は自分が支える立場になっていきたいと思う。今、恵まれていることに感謝し、大人になった時には義務と責任を持つて税金を納めていきたいと思う。

人が豊かな心を持ち、日々を送るためになくてはならない税金、人と人が助け合うことのできる税金、税を通して、人々が思いやりを持って、支え合える世の中になればと思う。

